

《事前アンケートまとめ②》 認知症高齢者・家族への支援体制の整備（認知症における医療・介護サービスの優先課題に対する取組みについて）

優先課題		今後必要な（必要と思う）取組み	現在行われている取組み
連携体制の強化 （情報共有、専門職・専門職外を合わせた連携体制）	クラウドシステムの活用推進	③利用者の多いサービス（訪問看護、通所介護、通所リハビリテーション）で連携を図り、クラウドシステムのハードルを下げる ④介護サービス開始時に、ケアマネジャーが「利用者の部屋」を作成し、外来担当医全員を参加者に登録する ⑧情報共有に関してはフォーマット、ルールの共有化 ⑨介護認定審査会資料である調査員の調査書・主治医意見書の情報を共有することは可能？ ⑩クラウドシステムの活用方法の研修（メリットをアピールする） ⑫IoT化の充実、記録と閲覧しやすいシステムができる→利用しやすいように ⑬丸亀市医療介護連携支援システムの有効な活用方法についての検証及び推進 ⑭介護事業者向けへの研修会	・労災病院退院時における利用者の部屋作成 ・利用者の部屋作成時のサービス事業者への説明、参加の呼びかけ ・利用者の部屋作成時に地域包括での介護認定審査会資料の情報入力
	多職種連携研修会の実施	①自宅での介護で何ができるか、何ができないか。多職種全体でどのようなことができるのか、自宅での介護を前提とした検討をまずやってみる ⑩意見交換、顔合せの場や窓口が必要 ⑫地域等の小単位で医療機関・介護施設も参加した介護支援研修会を開催する ⑬多職種連携の研修会に積極的に参加し、顔の見える関係づくりをする	在宅医療介護連携推進事業による ・多職種研修会の実施 ・丸亀市在宅医療介護連携支援センターの設置
	情報把握と提供	②認知症で一人暮らし、老老介護の状態、何らかの介護が必要。地域包括支援センター、民生委員で把握し、リスト・グループ分けはできないか？ ⑤地域包括担当者によるインフォーマルサポートの把握、ケアマネジャーなどへの情報提供 ⑥早期の状況を家族と専門職との間で連携をもつ ⑬認知症対応が可能な専門職がどこに所属しているのか把握する ⑮地域の活動など地域の力を活用する ⑯丸亀市在宅医療介護連携センターを活用する	
	システムづくり	⑦小グループをつくり対応施設との連絡を頻回におこなう ⑪支援がうまくいった事例、問題のある事例を、全医療機関・介護施設で共有できるシステムづくりが必要（全医療機関・介護施設が、認知症に対する支援の現状を認識する） ⑭認知症カフェのコーナーを作り、相談があった事例などは、他のカフェの専門職がアドバイスできるようなシステムを作り活用してみる ⑮病院の医師、ナースにもっと地域包括ケアに参加する意識を高めてもらうため、丸亀市が中心になり、基幹病院から退院した方の往診に、在宅医とともに訪問する体制づくり ⑲介護事業所と専門医が連携できる体制づくり	
行動心理症状への対応	介護従事者に対する研修会の実施	①具体的な行動・心理症状について個々に対策を立てる。関係するみんなで検討する。共通な認識で対応をする。 ⑦家族やスタッフのための研修会が必要 ⑮症状で現れる前に気づく事ができて、事前に対応ができるようになる ⑲職員の資質向上のための研修会	
	家族に対する研修会の実施	⑦家族やスタッフのための研修会が必要 ⑮症状で現れる前に気づく事ができて、事前に対応ができるようになる ⑲家族の対応能力向上を目的とした介護者支援講座の開催	
	介護事業者と専門医の連携	③クラウドシステムを活用して、介護事業者と専門医の連携を図る ⑩相談先がすぐ分かるように ⑲専門医に相談、意見を聞くことができる体制づくり	
	見守り体制の強化	②定期的に見守ることが必要だが、どの程度の間隔で可能か？24時間対応は可能か？バイタルサインに異常があれば通信するシステムは存在するか導入可能か？コストの問題、受診側の体制はとれるか？ ④地域の見守り体制の強化、徘徊模擬訓練などの実施 ⑥徘徊などの可能性が高い人に発信機の装着を行う ⑧地域ぐるみの対応が必要 ⑨地域住民が徘徊と思われる人を発見した場合の、警察への連絡等を市民に呼びかける	・認知症見守り SOS ネットワーク ・民生委員、福祉ママ等による地域の見守り
	サービスの向上	⑤ショートステイ、デイサービス等の利用回数を増やす ⑪認知症に対応できるデイケア、定期巡回型サービスを作る（活用する） ⑮ケアマネのアセスメント力を向上させて、サービスの適切な利用につなげる ⑲症状で現れる前に気づく事ができて、事前に対応ができるようになる	
	認知症初期集中支援チームの活用	⑫チーム力の向上	・認知症初期集中支援チームの設置
周知・啓発	⑬認知症の初期の段階で相談や受診することで、症状を軽くしたり、進行を遅らせることができる病気であることの周知をする（家族に対して） ⑭丸亀市認知症ケアパスの活用をする	・相談窓口での認知症ケアパスの活用	

優先課題			今後必要な（必要と思う）取組み	現在行われている取組み
	家族の介護力の向上のための取組み	介護講座の実施	①自宅で見るとすれば、家族に介護力が必要。病院、施設で介護者がどのようなやり方で対処しているか学ぶ必要がある。たとえばオムツの交換法、いかに回数を少なく交換しているか、オムツの種類等。行動異常に対する対応を習う ⑩家族のための介護の研修会、マニュアルを渡す場を作る ⑪訪問看護等を利用して、介護方法を家族が習得する ⑫認知症の診断とともに、家族が介護支援講座の受講につながるよう医師会と連携した体制づくり ⑬介護者支援講座の開催回数を増やす（年6回又は毎月開催）	・認知症家族介護支援講座の開催
		家族への支援	⑤認知症カフェで定期的（年3～4回）に家族会～介護者支援講座を行う ⑥自治会での相談回数を増やす ⑦家族への継続的支援 ⑧認知症サポーター、ボランティアの育成 ⑨地域コミュニティ毎に行っている予防教室に、在宅で介護するための手技や観察のポイント、急変時の相談方法など講座を開く（地域住民向け） ⑩「認知症家族の会」の利用	・認知症カフェの開催（市内12カ所） ・認知症サポーター養成講座の開催 ・認知症サポーターステップアップ講座の開催
介護力の向上 ・家族 ・専門職の資質向上	専門職の資質向上	研修会の実施	③研修は具体的事例で検討をする ④認知症ケアで有用とされる技法（ユマニチュードやバリエーションなど）が実践できるような解説書を準備し、利用する ⑤研修会の開催 ⑥研修会による認定制度を作る ⑦勉強会、研修会の開催と、その周知方法の検討 ⑧ケアマネの支援の力の向上のため研修に参加する ⑨概論の勉強だけでなく、事例の検討を含んだ勉強会を行う（気づきのポイント、原因と対応を考えるためのデータのとり方） ⑩専門職への研修会	
		事例検討会の実施	②家族がどこまでできるか、外からの手助けでどこまで可能か知っておく必要がある ⑪介護者、家族に対して、定期的に症状悪化を想定し、介護者の体調、家庭環境等を考慮しながら、在宅介護の継続、施設入所に対して、ケアマネ、医師が話し合う ⑫勉強会、研修会の開催と、その周知方法の検討 ⑬介護職が関わっている事例をもとに、医療職と行う勉強会を作る ⑭概論の勉強だけでなく、事例の検討を含んだ勉強会を行う（気づきのポイント、原因と対応を考えるためのデータのとり方）	